



Title	「グローバルなレベルから考える予防接種事業」
Author(s)	久木田, 純
Citation	目で見えるWHO. 2016, 59, p. 9-10
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/86664
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

●第5回 jaih-s との共催企画フォーラム③

「グローバルなレベルから考える予防接種事業」

関西学院大学 SGU 招聘客員教授

国連フォーラム共同代表

久木田 純



Jun KUKITA

西南学院大学、シンガポール国立大学、
九州大学大学院教育心理学修士、博士

課程を経て 1985 年外務省 JPO 試験に

合格。ユニセフ職員としてモルディブ、東京、ナミビア、
バングラデッシュ、ニューヨーク、東ティモール、カザフ
スタン各事務所で勤務。2003 年にはポリオ根絶事業の資
金調達で世界銀行総裁賞受賞。2015 年 1 月国連を退官。

●ユニセフでの経験

若い方は、自分は何者なのか、何のために生きて

いるのか、何をしたいのか、考えるはずだ。そこ
で私は 18 歳の頃、自分の人生 100 年をどう生き
るか考えた。その中で、生きるために何が必要か、
解決しなければいけないものは何か、を挙げてい
った。考えていく中で、人生の目標として「個の
保存と、種の保存」としたので、人類の発達のため
には、子どもの成長発達が大切だとの結論に至
り、国連職員を目指すことにした。国連職員は 30
歳くらいになる人が多く、コミュニケーション能
力、リーダーシップ能力など多くの能力を磨く必
要があったので、細かく長期の人生計画を立てた。
その結果 30 歳で JPO という外務省の試験に合格

し、その後は子どもたちの潜在能力の発揮と発展をめざしユニセフの活動を行ってきた。

●各国での予防接種事業

インド洋の真ん中のモルディブにてユニセフでの最初の仕事を行った。その時の仕事は予防接種のモニタリングや国のプログラムを作るなどであった。

次にナミビアに行き、ヘルスワーカーを育てながら、病院と協力しながら予防接種を行った。当時のナミビアはPKOの下にあったため、軍用飛行機でワクチンを配った。その経験の中で感じた一番大事な点は、コールドチェーンの仕組みが整っており、ヘルスワーカーがしっかり教育されている点である。それに加えて、人々が予防接種に行こうとする意志があることが重要だ。ナミビアでは大統領に依頼してワクチンをうってもらうなどし、国全体を動かす重要性にも気付いた。

その後東京の事務所に派遣となった。これから日本はODA 世界一になるので、子どものためにお金をまわせるようにしようということで仕事をしていった。当時、プライマリーケアを日本が全部支援しようとの動きもあったのだが、それでは大きすぎるとのことです。まずは予防接種から始めこととなった。インパクトの大きなローコストなものをパッケージ化していくという点で予防接種は大事である。

その後バングラデシュで副所長としてプログラム全体を見る活動を行った。モデルの方と一緒に予防接種をする活動など広報活動を行い、結果的にポリオの患者数が激減した。しかし、ここで問題として見えたものは、国際機関と国際金融機関との連携ができていない、という点であった。

●ポリオ根絶事業と金融機関との連携

そこで次にニューヨークへいき、ポリオ根絶の

ためのマルチパートナー協力を行った。ポリオ自体は2010年頃には1000ケースくらいとかなり減った。しかし、2000年までに根絶という計画だったため、金銭的にはそこをすぎてから以前のような活動ができなくなってきた。そこで、今後は国際金融機関との連携が欠かせなくなってくるということで、WHO・CDCなども巻き込みながら進めていった。ビルゲイツが25億円拠出し、ロータリー財団が25億円拠出して合計50億円を国連財団（UN foundation）が預かっておく。その間にユニセフ、WHO、世界銀行がナイジェリアやパキスタンなど大きな国に行ってポリオワクチン購入のローンの設定をする。そして、ワクチンを購入してもらい、接種活動を実施し、80%以上の接種率を達成できれば、国連財団の50億円を使って、それらの国のローンを当時の価値で購入する。まとめると、120億円相当のワクチンが50億円で買えるというマジックみたいなことをした。これで資金調達はかなりうまくいって、ポリオの報告も2010年までにかなり減った。

ただ、ポリオはまだ完全な根絶にはいってない。残っている国はイスラムの国が多い。しかも紛争を抱えた国。残りはどうやったらうまくいくのか。宗教者などを上手く巻き込んでいかないとやはり難しいだろう。予防接種を通して、MDGs（ミレニアム開発目標）やSDGs（持続可能な開発目標）など世界的ゴールを立てて目標を達成できることを、この事業に関わる人々は実感してきている。世界中を対象にした目標設定はうまくいく、ということが分かり、それによってMDGsができたというのもあり、今はこのような流れで2030年までのSDGs目標もできている。予防接種は地球規模問題の解決にとっても大きな役割を果たしているのは事実である。